

## 10月23日公開ヒアリング

### <各国シンポジスト>

**ラオス**：Kongkeo Tounalom（ラオス盲人協会会長・マッサージ訓練センター役員）

5年前から民間でマッサージ訓練をしており、視覚障害者10名に研修している。今年は年間20人に研修できるようになった。リラクゼーションだけでなく、筋肉の疾患に対しても治療できる。患者さんも増えている。

**カンボジア**：Boun Mao（カンボジア盲人協会代表）

盲人協会では、CBR、マッサージ、パソコン、点字の研修、点字図書館、雇用プロジェクトも管轄。

**ベトナム**：Pham Xuan Truong（ベトナム盲人協会職業訓練センターインストラクター）

マッサージ・リハビリテーション・数学等を教えている。

**モンゴル**：Ganzorig Batbayar（モンゴル盲人協会マッサージセンター・職業訓練センターインストラクター）

日本按摩を教えている。

**バングラデシュ**：Mahboob Ahsan（バングラデシュ職業訓練センター・視覚障害者協会理事、マッサージインストラクター）

沖縄プロジェクト参加。

**タイ**：Chamnong Kasonprom（タイ盲人協会役員・視覚障害障害教育・キャリア開発センター委員長）

### アンケートの狙いと集計結果（藤井）

狙い：昨年 WBUAP 時 AMIN 準備会議で大まかな主旨理解が得られたかと思う。

AMIN を通じ、力を合わせて、お互いの文化、状況、実態をしりお互いの情報を共有していきたい。カントリーレポートで大まかなものを共有しているので、今回は細かいものを理解し合おうとするもの。集計結果を発表し、質問し合い情報の共有をする。アンケートではマッサージ教育・に特化した細かいレベルの質問を設定した。

### 集計結果の報告

別紙参照。

### 各国のシンポジストのからのレポート

#### Q1

**ラオス**：国立リハビリセンターから得た数値

**カンボジア**：WHO の数字 1. 2%が視覚障害者。視覚障害者の数は減っている。インフルエンザなどに対する医療が進んでいるため失明防止が進んでいる。白内障の OP がうまくいっている。内戦が終わったため視覚障害者は減る：栄養失調が減ったため。地雷、爆撃が減ったため。

**ベトナム**：病気の予防が進んでいるため、あまり大きな増加傾向に無い。

**モンゴル**：去年までは調査してなかった。去年7月に実態調査をした。増減数は分からない。

**バングラディッシュ**：視覚障害者は、キチンとした数字は出していない。病気で視覚障害者の数は増えている。

**タイ**：6200万人の人口、政府登録ベース：視覚障害者30万人、リハビリを受けたのは1万人、リハビリ施設は4か所タイ盲人協会が運営。

#### Q2

学校教育を受けていない国カンボジア、フィリピン、ベトナム

カンボジア：学校制度、正規の教育、NGOの教育もある。今は政府が視覚障害者教育をほとんどしていない、準備に着手している。NGOではいくつかある。

ベトナム：盲学校が3つ ハノイ・ダナン・ホーチミンにある。ベトナム盲人協会では、文部省と協力して教育プロジェクトをしている。しかし大人数の教育はできずごく一部の人にしている状態です。政府の支援が必要。

Q3

ラオス：なかなか雇用の機会がないので伝統マッサージが主な職域と言える

カンボジア：企業での雇用少ない。マッサージが主なもの。音楽家、

小さな都市：(CBR、農業、畜産、漁業、機械修理工)

大きな都市：(マッサージ、盲学校の先生、音楽家)

ベトナム：視覚障害者は地方に住んでいて、家族と一緒に農業・造園、手工芸、都市部ではマッサージが増えている。音楽家もいるがごくごくまれなケース、パソコンを使ってソーシャルワークをしている人もごく少数いる。

モンゴル：視覚障害者が8千人居るなかで、生産年齢が約3000人その他の5000人は未成人高齢者。3000人の中で約3%100人が仕事についている。そのうち66.7人がモンゴルに一つだけある国営工場でモンゴルの住まいになっているゲル(テント)の編み物や縫物の仕事をしている。戦争道具、手袋を作っている。マッサージ師30人、その他は音楽関係、学校の先生、法律関係。去年までマッサージ師はほとんどいなかった。

バングラディッシュ：NGOが学校経営しているが、NGOで仕事をしたり電話対応をしたり、小さな会社経営、マッサージをしている

タイ：かつてタイのほとんどの視覚障害者は宝くじを売っていたが、現在はマッサージの仕事が1番多い。そのほか音楽関係の仕事をしている人もいる。

Q4

坂井Q：仕事をしていない視覚障害者は、仕事をしたいと思っているのか、もし仕事をしたいと思っているならどんな仕事をしたいと思っているのか。

ラオス：視覚障害者の大多数は仕事したいと思っている。マッサージ、音楽関係、オペレーターなどの仕事が考えられる。

カンボジア：まずマッサージを希望している、そして音楽関係。

ベトナム：3万人の視覚障害者は職業訓練を受けたがっている、中でもマッサージは地域に帰ってもできるので、マッサージ師にみんな興味があります。

モンゴル：仕事をしていない人は、家の手伝いをしている。みんな仕事をしたいと思っていると思うが、モンゴルでは視覚障害者ができる仕事に限られているため、国が視覚障害者の職業事情をもっと考えるべきだろうと思う。はっきりしたことは答えられない。

バングラディッシュ：教師になりたい視覚障害者が多い(公務員だから)

タイ：思うように仕事したいと思っている。収入が高ければいろんな仕事をしたいと思っている。宝くじでも、マッサージでも収入が確保できる仕事に就きたい。

喜多嶋Q：3カ国に訊きたい。ベトナム一般的食費が300数十円 マッサージは60分5~六千円で高い評価を受けている。教育と技術をキッチリすれば高い収入の分野に入っていけるのか？モンゴルは朝青龍を治療したような、温泉施設などでの分野からマッサージが入り込むことは可能か？タイでは、労働省で時間をしっかり組んだ

マッサージのコースはどうなっているのか、タイ式マッサージ、視覚障害マッサージはどういう分野を担っていくのか？

ベトナム：マッサージの訓練を受けられる人数はごくごく限られている。訓練を受ければ、治療院を作ったり、開業もできるが競争に勝つためにコミュニケーション能力の向上、機械や施設のいいものを導入したりする必要がある。マッサージをすればそこそこの収入を得ることができる。

モンゴル：国民のマッサージに対する意識が風俗関係になっている。しかしこれから医療施設でマッサージをして、国民の意識を変えていきたい。マッサージを理解している一部の人もある。盲人たちに自分たちのマッサージをしっかりと教えて、広めていきたい。

タイ：現在試験が3段階ある。タイ労働省認定。視覚障害者で初級レベル：約300人 中級レベル：約200人 上級レベル：まだいない

Q5

喜多嶋：モンゴル相撲にはトレーナーはいないのか？

モンゴル：マッサージ師がずっとついていることはない、日本の柔道整復師のような人はいる。これから良いマッサージ師を作らなければならない。

Q6

藤井：医療機関でマッサージをしている国はありますか？

モンゴル：国立病院で医療としてマッサージを2人している。

藤井：そのマッサージ師は、どのような教育を受けているのか

モンゴル：モンゴルの伝統的なマッサージを先生に3~6か月先生に教えてもらって、病院とマッサージの仕方を相談して行っている。しかしモンゴルの伝統的なマッサージには国の資格制度はない。（晴眼者も多い）

バングラディッシュ：グループで経営している治療院あるいはJICAの人たち、日本の大使館や学校など日本の人たちにマッサージしているといった状況。

喜多嶋：グループ経営は視覚障害の方々にやっておられるのか。

バングラディッシュ：ハイ。全員視覚障害者です。全員視覚障害のマッサージ師です。

藤井：ベトナムのグループ経営は何か所あるのか？

ベトナム：盲人協会が治療院経営している。個人でグループを作って治療院をしているものもあるおそらく300ぐらい（ほとんど視覚障害者）しっかり把握してはいない。

藤井：どのような理由で社会のマッサージの理解・受け入れられているのか

ラオス：人々の調子が悪くてマッサージを受けると、症状が改善した効果があったことを経験した。これまでマッサージはリラクゼーション目的だったが、

藤井：；ラオスに伝統的なマッサージがあるのか。

ラオス：伝統的なマッサージはタイから来ている：タイ式マッサージといっても過言ではない。

Q7

カンボジア：視覚障害者は日本式でやっている。ほかのタイプのマッサージは晴眼者が多い。社会全体で行くと、中国式、タイ式など晴眼者が多い。

藤井：日本では免許を持ったマッサージ師の7割以上は晴眼者、免許を持っているマッサージ師が約10万人。免許を持たないマッサージ師が10万人居ると思われる。日本ではもともと視覚障害者の仕事で、そこに晴眼者が入ってきた。マッサージの仕事を晴眼者から守ろうとする動きが出ている各国では、マッサージは晴眼者の仕事でそこに視覚障害者が入ってきたのか視覚障害者のしごとに晴眼者が入ってきたのか？

ラオス：ラオスではまず視覚障害者がはじめてそのあとに晴眼者が参入してきた。視覚障害者がタイ式をしているのに対し、晴眼者は他の手技をしている。マッサージのタイプが違っている。

カンボジア：まず晴眼者がタイ式をしていた。タイ式マッサージの訓練センターもある。視覚障害者との競争になっているが医療マッサージで抵抗を強めて生き伸びようとしている

ベトナム：200年ほど前からマッサージを健康維持のためと意識されている。いろいろと訓練を受け続けて大学で東洋医学を学んだりしてどんどんスキルが上がってきて。視覚障害者がマッサージを始めて、あとから晴眼者が参入してきた、今では晴眼者の資格保持者の方が多いと思われる。マッサージの資格制度がある。大学で東洋医学をおさめた人は学位の一部としてマッサージの資格を得ることができる。盲人協会では、大学と共同で訓練を行っていて、修了証のような形で資格を習得できる。

坂井：北でも南でも同じような事情か？

ベトナム：北でも南でも伝統的にマッサージの伝統がある。南での発展が著しいが旧北ベトナムでも推進されている。

モンゴル：晴眼者が先で視覚障害者が後

バングラディッシュ：5つ星のホテルでタイ式マッサージをしている。

2003年から視覚障害者だけがしている。

2003年から視覚障害者が日本式・中国式のマッサージを始めた。（5つ星ホテルで）晴眼者が先。視覚障害者が後。

タイ：伝統マッサージはかなり昔からで晴眼者から始まり、30年前からコーフィールドの盲学校訓練センターで視覚障害者の訓練を始めた。視覚障害者のマッサージがうまくいくと晴眼者が逆襲してきて、現在市場では晴眼者が多い。

フィリピン：Q5についてですが、フィリピンでは空港、港などで視覚障害者がマッサージ師として雇用されている。皆さんの国では、空港や港での乗降客に対するマッサージ師の職域は存在しますか？

カンボジア：マッサージの歴史が10年あまりしかないためまだ参入できていない 政府の管轄下のため参入できない 将来的に参入できたらと考えている。

ラオス：ラオスの空港では、視覚障害者も晴眼者もマッサージ進出はしていない

ベトナム：

モンゴル：やってない

バングラディッシュ：やってない これからこのアイデアを生かしたい。

タイ：やってない ホテル、病院ではやっている。

吉川：マッサージを教えて自立した人は、年収、ドルベースでどれぐらいの年収でどれぐらいのGNPなのか？また、アジアではマッサージイコールセックスの認識が当たり前の様にあるが、ノンセックスとしてどのように教育しているのか？

ラオス：月50ドル～300ドル稼ぐ（公務員と比べると低くない、ビジネスの世界の人たちと比べると同じくらい）マッサージを行っているところは大きな場所を使っているので風俗関係に誤解されることはあまりない。

カンボジア：70～300ドル（平均月収 工場労働者とおなじくらい）。風俗については答えづらい。ホテルでのマッサージはそういったことも考えられるが、視覚障害者は治療院でやっているの、プライベートな場所でマッサージはしていないので特に風俗のことは考えていなかった。

坂井：カンボジア国民の平均月収はどのくらいか？マッサージで得られる収入はそれと比べて高いのか低いのか？

カンボジア：皆さんと比べて同じくらい。工場労働者とおなじくらいの月収  
ベトナム：マッサージの平均月収は44~100ドルぐらい（国民の中では普通より高い）。  
盲人協会ではマッサージの意義をメディアを通して訴えている訓練の中に風俗関係を防止するような内容が含まれていて、患者とのコミュニケーションを通じてそういったことを進めている。  
モンゴル：70ドル（最低賃金）~200ドル（公務員平均）マッサージ師の平均月収70~150ドル 公務員よりやや低い。私は日本のマッサージ教育を受けた。日本のマッサージはセックスとは別物として教わったのでそれを伝えていきたい。  
バングラデシュ：マッサージ師の月収500ドルより少し低い。一般より少し低い。25000タカ 日本円に直すと50000円くらい視覚障害者は日本関係治療院、病院、日本関係の機関でマッサージしていてそういった実績をとおして誤解が少しずつ解けてきている。あるいはあと1~2年で世の中の理解が深まると思う。マッサージで健康増進を信じている。  
タイ：マッサージ収入150~300ドルが平均消して悪い数字ではない。晴眼者の最低賃金180ドル 平均250ドル。視覚障害者のマッサージは風俗との関係はないが、晴眼者ではそういったつながりがある。対策としては、伝統的なマッサージは健康のためで風俗のためではないと社会に訴えていきたい。

Q8・9

坂井：指導者が不足しているのか。どのような指導をしているのか。といった現状を話してほしい。

ラオス：指導できるのは2人だけ。2人とも開業している（週3回研修センターに指導しに来ている指導員が帰ったあとは生徒が自習している）

カンボジア：指導員は4人しかいない。その4人から研修をうけ各地に戻って開業している。日本の按摩式、沖縄プロジェクト卒業生が教えている。AMINがセミナーをした。

坂井：週何日間か曜日をきめているか？

カンボジア：いまは自分たちで研修していない。理由は、資金難。指導員にお金を払えない。

モンゴル：指導者が少ない、指導者は3名：沖縄プロジェクト修了者2名、とガンゾリンさん。沖縄プロジェクト修了者の1人は地方の視覚障害者に指導している。ウランバートルではガンゾリンさんともう一人の沖縄プロジェクト修了者が日本式を教えている。教科書は、日本で使っていたものを自分たちで翻訳して使っている。

ベトナム：指導員の増加が必要、マッサージの需要が増えているので。リハビリテーションセンター3~4か月の講習をしている。講習終了後治療院に戻って治療を行っている。盲学校ではカリキュラムにマッサージが入っている6~10か月かけて講習している。しかし盲学校なので点字・リハビリなどと一緒に、マッサージを並行して教えている。

坂井：ベトナムでマッサージで生計を立てているのが1000人に対し指導者200人は充実しているように思えるが、指導者は視覚障害者か？

ベトナム：晴眼者を含んでいる

坂井：200名の中で視覚障害者の指導者の数は

ベトナム：150人ぐらい

バングラディッシュ：指導員2人でJICAのボランティア。JAICAの事務所で教科書の翻訳などを行っているが明らかに少ない。丸1日を使って週6日（金曜休み）のプログラムで1年指導している。

タイ：これまで4か所でのマッサージの指導をしていて200人受けた。  
基本レベル合格者は地元でマッサージ・点字の講習をすることができる。  
研修を受けた視覚障害者は3000~5000人受けた人がいる。

基本レベルの試験に合格したものが指導者になれる。

基本レベル合格者、視覚障害者指導者の数は200名毎年合格している。トータル1000人ほどいると思われる

藤井：マッサージ指導者の数がどのくらい必要なのか？何人まで増やそうとしているのか

タイ：タイ視覚障害者が30万人いるので2000人は必要

バングラ：とりあえずあと2名 毎年6~8名訓練している

カンボジア：

モンゴル：2~3人は必要

ベトナム：今の3倍ぐらいは指導者が必要。各地の盲人協会からの報告を受けるとやはり3倍は必要。マッサージの指導を受けたい人の数は分からないが

カンボジア：指導者を増やすと、1人を教えて、みな指導員になっていくので、実際何人にしていいか分からない。免許制度が無いので。免許制度が確立されれば発展していくかもしれない。

藤井：カンボジアは今マッサージ師が100人いるとの事ですがもうちょっと増やすことを考えていますか？

カンボジア：研修や訓練をどんどん進めたいと思っていますが、私たちのコントロール外でもどんどん研修ができてしまいますので、コントロールできなくなるのでどうしたらよいかと悩んでいる。

藤井：視覚障害者の業者間の競争が激しくなっているということですか？

カンボジア：そうです。

ラオス：ラオスには13000人位の視覚障害者がいますが、働いている、登録しているのは150人ぐらいしかいません。今のところもう少し指導員が必要と考えています。

#### Q10, 11

坂井：どのようなところで教えているのか？どんな方々が教えた方が良いか（それぞれの国の事情）

ラオス：ラオスには訓練所は1か所しかなく、2人が教えているラオス盲人協会メンバーでボランティアをしている。

坂井：今の指導者で十分か？

ラオス：現状のこの二人以外は誰もいない。筑波技術大学（AMIN）から教えに来てくれたことがあり10人が研修をうけた。

カンボジア：カンボジア政府とジャイカ（沖縄プロジェクト）から帰ってきた人が教えていた。開業している視覚障害者もいる。

ベトナム：26か所で教えているその中に、盲学校3校、盲人協会の職業訓練センターが1つ、各地のマッサージ訓練センターもある。指導者としては海外で研修を受けた人が各地に戻って教えるのがいいのではないかと考えています。

モンゴル：国営の盲学校は1つしかなく高校までマッサージは教えていない、マッサージはモンゴル盲人協会が運営している職業訓練センターで教えている。マッサージを教えているのかこの1か所のみ。どんな人がマッサージを教えたらよいかの質問に対して、実技は成功しているマッサージ師 知識はDrが良いと思う。

バングラディッシュ：ほんの5年前からマッサージの講習を始めたところです。JICAのボランティアセンターで1年後に誰が続けるかをJICAのボランティアセンターで人を選んでいる。

タイ：伝統マッサージは、伝統があるので、5年前からセギンの協力を得てマッサージの指導を始められるようになりました。最近では指導員が各地方へ行って3~4か月の指導をしています。財源としては7000ドルくらいで10人くらい指導できる

Q12~15

坂井：テキストについてどんな言語ものが、どんなメディアのものが必要か？

タイ：教科書はタイ語で欲しい。MP3形式のデジターとカセットテープで欲しい。

バングラデッシュ：CD、カセット、ベンガル語と英語の点字。

モンゴル：英語・日本語の点字、デジター。

ベトナム：ベトナム語の教科書、視覚障害者は外国語を勉強する機会があまりない無いためベトナム語が必要。点字・デジター・カセットなど都市部では盲人協会がデジターの作成を始めている

カンボジア：クメール語で欲しい、点字の本、カセット、CD、デジター

ラオス：ラオス語の教科書が欲しい、CD、テープ、点字、CD、カセットの方がニーズ高い、点字を知らない視覚障害者が多いので音声の方が良い。

吉川：指導者供給源としては日本にマッサージを教えられる指導員が多くいて国際貢献をしたいと思っている。月収を聞いていると250ドル~300ドルと非常に高い。障害者のNPOの仕事をしていると1日1ドルあればよいといったことが多い。これだけお金があるのなら指導者を日本で供給するので指導者の交通費、ギャランティー、生活費が自分たちの国で賄えるのではないか？

タイ：ボランティアが来て教えてくれるなら、海外の団体から予算の手当てをして頂きたいと思います。

ベトナム：ベトナムのマッサージ指導者の月収は40~80ドルです。海外の指導者はその他いろいろな経費がかかってきますのでそれを全部まかなうのは厳しい。

カンボジア：各自の自営の人たちに寄付してくれと言っても拒否されます。とても無理です。残念ながら難しいです。

インドネシア：職業マッサージ業の団体のあるところはありますか？

モンゴル：無い。

タイ：視覚障害者の伝統マッサージ師の団体がある。リハビリテーションセンター4つもそれに関係している。

坂井：講習会をしたり、何か社会的な運動をしたり、国に働きかけるようなそのような働きかけをするような組織でしょうか？

タイ：視覚障害者マッサージ師が政府といろいろ問題があったりしました。団体が政府と協力して試験や資格制度ができてくるようになりました。当初政府が視覚障害マッサージ師にいろいろ言っていた時に視覚障害者が行動を起こして、政府が妥協した。

ベトナム：現在視覚障害マッサージ師団体はない、AMINや皆さんの協力でいずれぜひ作って行きたいと考えている。そうすれば、いろいろな研修訓練センターと協力して進められる。

藤井感想

今発表のあった、収入、施術所の数、教員の数はおそらく都市部の問題であって、地域格差の問題、農村部、山間部に住む視覚障害者の問題については別の問題があるだろうと考える。マッサージ師を育成するときの評価の仕方をどのようにしているのか、指導者の資質の向上をこれからどのようにして行ったら良いのか。政府への働きかけを含めて、今後の各国の行動目標・計画をどう立てるかについて考えたい。

視覚障害者マッサージ業の重要性を普及させる必要性、そのために指導者を育成。資金面の課題が浮き彫りになった。

## 喜多嶋感想

観念的なことになってしまうが、視力障害マッサージ師は決して健常者には負けない。指導でも臨床でも負けないといった自負を持っている。各国におかれましても、指導者のみならず訓練生にもそのような気持ちを持たせるような指導体制・指導内容を組んで頂けたらと思います。

10月24日

## <各国シンポジスト>

**インドネシア：Yacobus Tribagio**（盲人連合副会長・バンゾンの特殊学校教師）マッサージ治療院を経営していて10人雇用している。

**マレーシア：Norimah Hj Ahmad**（マッサージ治療院経営・マッサージ師団体事務局）現在9人雇用している。フリーでインストラクターをしている。社会的活動としてはマッサージ師団体の事務局をしている。沖縄プロジェクト参加。

**フィリピン：Oscar Jino-o Taleon**（フィリピン盲人連合運営）海軍の将軍を引退しています。3つの団体を運営している。そのうちの 하나가フィリピン盲人連合です。これは視覚障害関連の仕事をしている集合体です。その団体の多くがマッサージを営んでいます。

**韓国：ヤンチュルソク**（マッサージ協会教師）

私は生まれつきの視覚障害者小中高はもう学校、大学は放送大学でした。大学院では社会福祉を勉強して、その後マッサージ協会と福祉連合で働きました。今はマッサージ協会の習練院のマッサージ教師です。公人的の仕事としてマッサージを40年ぐらいらやりました。今から5ヶ月前に小さなマッサージクリニックを開きました。

**台湾：センメイショウ**（職業訓練センター教務主任）

2003年10月IAVIで日本語を半年勉強し2004年4月筑波大学付属盲に入学し今年3月に卒業しました。日本の鍼灸あんまマッサージ指圧師の免許を持っています。現在、台湾で台湾盲人重慶院という中途失明者の職業訓練センターで教務主任をしています。今生徒に、日本語とマッサージを教えている。

**日本：与那嶺岩夫**（開業マッサージ師）

24年の開業経験がある。中途失明者で鍼灸按摩も免許を持っている人の団体の事務局長をしています。今日本では、色々な鍼灸マッサージの問題が上がっています。そのようなものを解決して、日本で昔からあるこの仕事を視覚障害者がきちんと自分のものにして、税金を納め、家族を養い、自分も食べていけるような環境作りをしています。

Q、各国の視覚障害者の増減について

視覚障害者マッサージ師の平均月収と各国の平均月収と比べてどうか？

インドネシア：人口も視覚障害者も増えている。

坂井：増えている理由は？

インドネシア：病気や、健康に関する意識が低いため疾病が考えられる

坂井：月収はどうでしょう？

インドネシア：月収は20~300ドル。普通と比べて決して十分とは言えない。

藤井：マレーシアに対して質問。

Q1：視覚障害者の人口21000人の割合の確認がしたい。



Q2 : 問4にマッサージが入っていないが、マッサージは何番目ぐらいか？

Q3 : 問6を%で答えているがどういうことなのか

マレーシア :

A1 : 視覚障害の人口は失明予防委員会がNCBM(マレーシアの視覚障害者を対象にした教育、リハビリテーション、雇用、一般的な福祉と障害の予防に関わるサービスの実施、政策の導入とその改善の推進が含まれる)の中にあつて、失明予防にかなり努力していて全体の視覚障害者の数は減っている。しかし、事故やグラコーマ(緑内障)の為に視覚障害者生まれてもいる。

A2 : 一番多いと思います。1300人ぐらいいる

A3 : マレーシアにはマッサージセンターが増えているホテルなど、しかし幾つあるかはわからない、かなりあることは確かだがほてるサービスでやっているとだけ書かせていただきました。この中には晴眼者も含まれる。

藤井 : このところの質問でどういった所で行っているかという所で、個人か経営かグループ経営かなどどの施設での仕事が一番多いですか？

A : 少なくともグループ経営よりは個人経営の方が多いと思います。

Q : 何件くらいありますか

A : きちんとした数字は分からない(晴眼者を含んだ割合の数字しか分からない)

Q : 視覚障害者経営では個人が一番多いと、2番目はグループ経営でしょうか？

A : そうです。

フィリピン :

人口ですが、人口全体は八千五百万人、視覚障害者475,000人増減ですが政府の発表で少しずつゆっくり減っている状態です。栄養に関する意識を高めたり、感染症の予防が進んだり、プライマリーケアの部分で産前、産後などのヘルスケアも進んでいることから視覚障害者の人数も減少している。事故などによる視覚障害者が出てきたり、人口が増えれば、視覚障害者の数も増える。

Q : 収入の方は

A : 平均1日6ドル。これは最低賃金より低い。

Q : 月収的に見ても低いということですか？

A : そうです。

Q : マッサージを行うよりいい仕事はあるのでしょうか？

A : 1番はやっぱりマッサージ、2番目に音楽家、それからマッサージでない個人経営、教師、法律家、コールセンター、医療で文書を扱う人、農家といった職業もある。

Q : マッサージの平均収入は低いわけだが、教師や弁護士の給料は低いですか？

A : はい、教師や弁護士はもっと高いです。マッサージ師も収入の多い人はいます。ただ平均だと低いです。4タイプあつて、まず①治療院で働いている、②ショッピングモール・空港でマッサージする人、③フリーランスで出張マッサージしている人たち。

韓国 :

人口4100万人、視覚障害者20万人ほど(保健福祉センターの登録者数)今は増えている。1年に約2万名が登録している。登録していない人も多い。中途失明の人が増えている。マッサージに従事する人が2000人ぐらい。

Q : マッサージ以外の仕事は？

A : 普通よりマッサージ師の収入は高い。

台湾 :

大学卒業者の平均収入は1,000ドル。空港などのクイックマッサージは600ドル弱視のかたの平均は2000ドル。

日本：台湾・韓国は収入が高い。月収20～30万でそんなに高い賃金でない。日本では伝統医療としてある。サラリーマンとして特別養護老人ホームで働いているマッサージ師は収入が多い。

#### 晴眼者と視覚障害者の違いと諸問題

インドネシア：視覚障害者と晴眼者の割合は1：1晴眼者でも就業は難しいため晴眼者もマッサージに参入している。視覚障害者は社会的にイメージが悪い。異性間マッサージはイスラム教で難しい。視覚障害者は物乞いのイメージが強い。

Q：イメージを変えるには？

A：団体の活動を通じて変えていきたい。

マレーシア：視覚障害者と晴眼者では晴眼者が多い。きちんとした教育と技術を持つ人もいるが、低い技術では信用を失う。視覚障害者に指導者は少ないのであと10人は必要。

フィリピン：晴眼者マッサージ師が多いリラクゼーションとしての方が多く医療としては人気が無い。晴眼者の女性のところに別の理由で行く場合がある。指導者が1千、マッサージ師が3千人。マッサージ師が増えていてショッピングモールで開業している。3日の講習で、開業してしまう。1千人はすべて視覚障害者だが、きちんと教えているのは50名程度。

韓国：韓国では視覚障害者だけがマッサージ業できる。

不法マッサージ業をする業者がいる。不法にマッサージ師を養成し、無資格営業している。現在はマッサージは視覚障害者にとって適切な職業として政府に認められているが、マッサージが視覚障害者だけのものでないといったことになった。

台湾：あん摩マッサージは視覚障害者だけしかできないと保証されている。しかし不況のためマッサージは資金が無くても開業できるため晴眼者がマッサージをしている。看板に按摩と書かないとマッサージできてしまう。看板で判断できる。視覚障害者は盲人マッサージと書く。

日本：国がマッサージ師の数を出している10万人中25.3%が視覚障害者の割合が毎年1%ずつ減っている。